



下田村

村長 佐藤 寿一 様

1998年(平成10年) 3月31日

社団法人 日本建築家協会

関東甲信越支部長

保存問題委員会委員長



### 「下田村大浦小学校ならびに大銀杏」の保存に関する要望書

拝啓 時下ますますご清栄のことお慶び申し上げます。貴村におかれましては、独自の地方自治を目指しておられることに深い敬意を表します。また日頃より本会と会員に対しご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

さて貴村が所有されております大浦小学校校舎は大正8年に建てられた地方木造学校建築の典型であり、貴村にとって貴重な建物であると存じます。

近年日本経済の発展に伴ってスクラップ・アンド・ビルドの風潮が高まり、近代建築が次々と壊されていく中、当時の建築様式をそのまま伝える数少ない建物であり、78年間にも渡り存続・継承されてきた事に敬意を表します。

過日、建物を拝見させていただきましたが、山間を背景に風光明媚な景観にしつとりと馴染んで存在し、時間を経てきた建物の持つ魅力と、大きく枝を広げた大銀杏の存在感を改めて実感いたしました。この度、校舎の取り壊しと大銀杏の伐採を検討されていると聞き及びましたが、大銀杏につきましては活用への道をつけようとしているとのこと、まことに敬服いたすものです。

校舎に使用されている材料の質、入母屋と寄せ棟の屋根から構成されている建物には、先達の“わざ”と“文化”が凝縮しています。

木造校舎は小学生の記憶の中で多大な感性を生み、その存在は多くの村民によって継承されていると思います。老朽化し危険である由と伺っておりますが、貴村の長年にわたる尽力による維持・管理によって現在も立派な容姿を誇っています。したがって、十分な調査を行い、手を加えることにより持続可能な建物と思われれます。

今私達がこの建物を失うことは日本の近代建築の成果にとって、大きな損失であることは疑う余地がございません。そして、一度壊れた建物は二度と取り戻すことは出来ません。

私共(社)日本建築家協会の保存問題委員会は、市民に愛され、使い続けられて来た建物を大切に、それに値する建物を創る事を理念として活動しております。

時代を経て来た建物は所有者のものであると同時に村民のものでもあり、建築史の上でも重要であり、保存していく事は、現在生きている私達の責務であるといえるのではないのでしょうか。貴村の学校施設として使い続けられることを強く要望いたします。

又、建物を存続・継承していくために、文化財登録制度のご検討も合わせてお願い申し上げます。

以上の観点から大浦小学校ならびに大銀杏の存続をお願いすると共に、保存・活用につきましては、私共も出来る限りの協力と支援をさせて頂くことを申し添えます。

敬具

社団法人 日本建築家協会  
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部  
〒150-8001 東京都渋谷区神宮町2-3-18 JIA 館  
Tel 03-3408-8291 Fax 03-3408-8294